

写真1枚で売り上げ倍増？人は見た目が肝心！

巻頭特集

令和の新常識

# セルフ ポランディング のすすめ

皆様もおなじみのJSHIホームページにあるホームインスペクター紹介。みなさん、一見してどんな印象を持たれますか？

「真面目そう」「ちょっとお堅い感じ」… それ、写真の撮り方が原因です！

今回はプロフォトグラファーの小森 学さんにセルフプロデュースの勘所と、好感度がアップする写真の撮り方を教えていただきました。

講師 写真家 小森 学

## 講師紹介

写真家

小森 学

1975年 北海道大樹町  
生まれ。札幌在住。



ホームページ

<https://www.komorimanabu.com>



中学生の頃、書店で母親が手にした土門拳の写真集『古寺巡礼』が写真との出会い。高校卒業後、専門学校で写真の基本を学び、撮影スタジオで助手として働いたのち、独自の写真哲学と技術を積み上げている。

人間という存在と、被写体一人一人の個性に対する彼の探究心は、とどまるところを知らない。人はみんな違い、だからこそ世界は美しい。小森学は「その人が何者であるのか」を映し出すその一瞬を求めてカメラを持ちづける。

## 1 「人は見た目が9割？」セルフプロデュースのすすめ

こんにちは。写真家の小森学です。仕事柄多くのプロフェッショナル達のブランディングの現場に接してきました。今回は、ホームインスペクターの皆さんのイメージをワンランクアップする写真の撮り方についてお伝えします。

まずは写真を見てください。



どれも同一人物ですが、どの写真が一番良い印象に感じますか？左は何の説明も受けずに普通に自撮りしたもの、真ん中はそれらしくポーズをつけて自撮りしてみたもの…腕組して斜め45度の写真は俗にラーメンポーズといわれ、一時流行りましたね。そして右は私が撮影したものです。特に変わったことをしていませんが、ご本人らしい自然な表情を大切にして撮影してみました。いかがでしょう？

日本人はとかく「自分を良くみせる」、いわばセルフプロデュースを行う事にしり込みしがちです。しかし、一般の消費者からお仕事をいただく場合、一番大切なのはファーストインプレッション！「人は見た目が9割」という本もあったように、第一印象はお客様のその後の行動に大きな影響を与えるのです。あと、ヒトも動物ですのでまず見た目で敵か味方かを判別します。第一印象で選ばれるという事は思った以上に深い意味合いを持っているのです。

さて、ここで何よりも大切なのは「まず自分をプロデュースするというマインドを持つ」ことでしょうか。経営者の皆さんにお聞きすると「いや、うちは普通の〇〇ですから」と謙遜されますが、本来誰かからお仕事をいただいで、それが続いている事自体がすごいことです。それは、なにがしかの魅力が皆さんにあるということ。まずは「自分たちが人に喜んでいただける存在である」ことをしっかりと認識することが大切です。その上で、自らの長所が見えてくるように表現を磨いていくことがセルフプロデュースなのです。

## 2 インспекターが行うべきセルフプロデュースのポイント

一般に士業の皆さんは仕事柄お堅いイメージで写真に納まりがちです。弁護士でも建築士でもそこは一緒に、基本的には偉そう、スゴそうな写真が多いですね。これは、士業という仕事柄、能力の高さを感じさせたいという思いの表れでもあります。でも、一般のお客様が相手の場合、**多くの方がプロフェッショナルに求めているのは、自分に寄り添ってくれる姿勢**なのです。実はこれは士業でも一緒に、やさしそうなイメージや、誠実さがにじみ出る人のほうが仕事をお願いしやすくなります。さらに、ホームインスペクションの場合は奥様の意向が発注に反映されやすいはずですので、このことは非常に大切だと思います。

写真というのはウソがつけられない媒体です。例えば選挙ポスターの場合を考えてみましょう。基本的に掲載写真と実物の印象が変わらないポスターは女性受けします。女性はポスターで選ぶといわれるほど見た目の影響が大きいとされますが、それは一瞬でウソを見抜く勘が鋭いからかもしれません。取り繕った表情は敬遠されるのです。このため、選挙ポスターの制作では「人との関係性で表出する表情」を出すことに腐心します。カメラマンも本人との間の関係性を高めることで自然な笑顔が出る状況を作っているのです。

さて、では実際にどうすればよいのかとお思いの方も多いと思いますが、案ずるより産むが易し。まずは実際に写真を撮ってみましょう。まずは自撮りで構いません。気にすべきポイントは明るさと笑顔です。初めは表情もぎこちないでしょうが構いません。

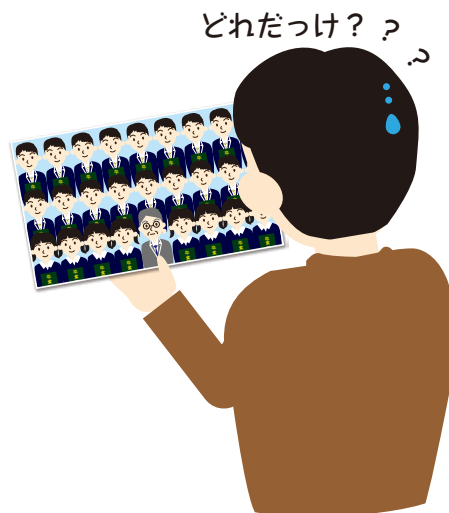
次に、自分が信頼している人、心を許せる人をお願いして、じっくり時間を掛けて撮影することです。ここでのポイントはリラックス！世間話などをしながら、リラックスした頃合いの表情を撮ってもらえば、フレンドリーで柔らかな表情になっているはず。

それが本来のあなたの表情なのです。最初の自撮り写真と比べてみてください。

## 3 自分の笑顔に自信のない人が多いのはなぜ？

自分の笑顔を「恥ずかしい」と思っている日本人、特に男性は意外に多いのです。自分の笑顔に自信がない人が多い。

私はその原因は卒業写真にあると思っています。仏頂面か、笑っていても「周りの人が笑わせた、反射で笑っている顔」が多いので、自分のように感じないのです。みんなが同じ方向から撮影されて無個性なもの「個々の良さが出ない」原因になっています。



## 4 今すぐできるイメージ写真撮影のポイント

では自撮り、もしくは家族や親しい人に撮影してもらう場合に、今すぐ試せる写真撮影の基本的なポイントをいくつかご紹介します。

まずは鏡やスマホで見ながら、自分の顔が良く見える角度、つまり自分なりに気に入った見え方のする角度を探してみてください。いくつかあって迷ったときは「なんとなくやさしそうに見える」方を選びます。コツはきちんと体を起こして、すこし上から撮るように意識すること。わかると思いますが、下からあおって撮ると怖い顔になりがちです(笑) そういえばJKが自撮り棒で撮っている時も少し上から撮影していますよね。

人物撮影の基本テクニックをいくつかまとめておきます。



### ◆良い写真を撮るために

事前準備	<ul style="list-style-type: none"><li>●自分が好きな服を用意する。</li><li>●自分がリラックスできる撮影場所(環境)、状況を見つけておく。</li><li>●自分が良く見える角度を把握しておく。</li></ul>
撮影時	<ul style="list-style-type: none"><li>●椅子に座ってしっかり体を起こす。</li><li>●明るい表情+明るい背景の組み合わせを心がける。</li><li>●極端な順光を避ける。まぶしそうな顔はしかめっ面になりがち。窓バックも良い。</li><li>●スマホなどでは、撮影後に顔をタップすると明度を調整できます。明るめに!</li><li>●上級者はスマホやアプリの編集機能で調整してみましよう。(盛りすぎに注意)</li></ul>

## 5 撮影のプロに撮ってもらう場合は？

セルフプロデュースの心構えはできましたか？この段階になると、きちんとしたプロに撮影してもらいたいという方も多いはず。ちょっとした自己投資と思って依頼してみましょう！その場合、誰にどう頼めばという問題が出てきますね。

まず、同業界の知り合いで良い感じの写真だなと感じる人がいたら「誰に撮ってもらったの？」と聞いてみましょう。その時の「良い写真」の基準はあくまでも「普段のイメージとかわらない写真」という事を肝に銘じてください。いくらカッコよくても、実際の本人とかけ離れた写真を撮るのはここではアウト。大切なのは本人らしさですから。また、まわりに良い実例がなくても、知り合いからお勧めの写真スタジオやカメラマンを教えてくださいのも一案です。



撮影してもらえない伝手が無い方は、ホームページなどを検索してみましょう。その場合は写真館やフォトスタジオよりも、フリーのカメラマンをお勧めします。フリーのカメラマンというのは意外と多くて、検索すると結構出てくると思います。多くは普段企業の仕事や、結婚式などの撮影などを行っていると思います。彼らのホームページをチェックする時は、その発信から察して話しやすい、親しみやすい人かどうかを基準に選んでください。意外かもしれませんが、モデル撮影の仕事を中心にメインで行っている方は遠慮した方が良いでしょう。「笑顔の上手な、写されるプロ」ばかり撮影しているのと、一般の方から魅力を引き出すのではちょっと違う技能が必要だからです。

今回は写真の撮り方を中心に、自分を魅力的に見せるコツをお伝えしてきました。初めに書いたように、まずは踏み出すことです。皆さんのHPの写真が一段と素敵になるように祈っています。

# なぜ、セルフプロデュースが大切なのか～巻頭特集の狙い

JSHI事務局

## 検索システムの写真はいつでも変更可能です！

事務局にはJSHIインスペクター検索システムに掲出するために、皆さんから顔写真が寄せられますが、ほぼ全員が免許証写真状態。どなたも正面見据えて睨みつけ(なかには、眉間にしわを寄せている方も)ています。依頼希望者がその写真だけでその方の人格を推しはかろうとすると「怖そう」「面倒くさそう」「お・じ・さ・ん」・・・そんなイメージでしょうか。

資格証に表示する写真は、それでも結構ですが、検索システムに掲出する写真は、お客様にあなたを選んでもらうための写真。何人かお願いしたい候補のインスペクターを並べてみたら、みんな怖そうでこっちを睨みつけているオジサンばかり。

これでは、せっかくの依頼動機があるお客様も怯えてしまいます。

かたや、最近流行のインスペクター紹介サイトでは、サイト運営者からの指導もあってか、これ以上、口角が上がらんゾと破顔一笑。仮に、その二つを並べてみたなら、誰でも、おそらく笑顔インスペクターを選ぶのではないのでしょうか？

そんな危機感から、今回はポートレート撮影ノウハウを企画してみました。事務局にお写真お送りいただければ、検索システムの顔写真は差し替え可能ですから、いつでもお申し付けください。

## 個人事業主が活躍できるインスペクター業界。その秘訣は？

さて、ついでに気になったので、JSHI検索システムでどんな方に引き合いが多いのか、過去5年程度を遡り、データを集計しTOP10インスペクターをまとめてみました。これは、検索システムのメール機能を利用して、お客様がインスペクターにメールを発出した件数であり、検索システムのデータを見て、直接電話やメールをした件数は含まれていません。概ね、毎日1件は日本どこかのインスペクターにインスペクション依頼の引き合いがあり、多い方は毎月1件以上の問い合わせがある事が判ります。検索システム経由メール問い合わせだけの数値ですから、おそらく実際には相当数の引き合い・受注があるのだろうと推測します。

さらに判り易いのは、相当に偏っている事。つまり、今まで過去数年に一件の問い合わせも無い方もいらっしゃる(それが大多数です)、都市圏に事務所を構えライバルが多いにも関わらず、廻りの大勢いるインスペクターより「あなたにお願いしたい」との引き合いのある方がいらっしゃる。ここ数年はSTさんの独壇場です。数名の方々は毎年TOP10常連となっています。また、よく「大手のインスペクション会社が総取りして、個人のインスペクターに仕事が廻ってこない」という愚痴をお聞きしますが、STさんはじめ常連の方々は、見る限り、皆さん個人事業主です。

違いは何か、興味を持ってSTさん他のホームページを拝見すると、やはり、密度と 생각이違う。そして、それが伝わってくる、という事です。逆に血の通っていないホームページの典型は「インスペクションとは」「仕事の流れ」「費用の目安」「所持資格」みたいな事柄を表記してはいるのですが、妙にデザインがあか抜けている、文章に迫力や誠意がない。多分、どこかのテンプレートを使い、どこかのホームページテキストをコピペ改竄し、もしかすると、インスペクションの事を、これっぽっちも知らないホームページ制作会社に依頼したのかな?と思えるような形だけホームページ(でも、無いよりはいいのですが)。

インスペクション業務と言っても多岐に渡り、インスペクターそれぞれで、おそらく得意分野が違うはず。その部分こそが、あなたが選ばれる要素の

はずなのですが、それがお客様に伝わっていない。資格を取ってホームページを作ったけど仕事来ない、だから、インスペクションなんて商売にならない、ってのは、ちょっと違って、あなたならではの個性がお客様に伝わっていないだけのような気がして、STさんのホームページを惚れ惚れと眺めていました。

まずは最低限、笑顔の写真、そして、自分の得意技の深掘り、そしてそれが伝わる垢抜けなくともいいから、思いの伝わるホームページ。そんなところから、始めてみませんか。

## ◆JSHI検索システム経由のメール問い合わせ件数インスペクターTOP10

2019	件数	2020	件数	2021	件数	2022	件数	2023	件数
Σ	359	Σ	311	Σ	336	Σ	580	Σ	431
TS	7	ST	12	ST	13	ST	15	ST	17
MH	5	TS	8	OM	9	YM	12	YS	9
OM	5	TT	6	FS	6	OM	10	SH	8
AT	4	HK	6	YS	5	YY	8	YY	8
IS	4	FS	6	HK	5	JT	8	OM	8
NT	4	SH	6	SH	5	YT	7	SS	8
IT	4	OM	6	SM	5	AN	7	YM	7
KN	4	FT	5	IH	5	SM	7	FS	7
TS	4	KK	5	IT	4	TM	6	SK	7
FS	4	MY	5	NT	4	MS	6	TR	6

※イニシャルは必ずしも個人名をそのまま表しているとは限りません